

報道関係者と民博との懇談会 話題一覧

平成 27 年 10 月 15 日 (木) 15:30~16:30 懇談会

※懇談会終了後、お時間のある方は引き続きご懇談ください。

1. 挨拶

— 須藤健一 (館長) —

2. ニュースリリース

— 池谷和信 (議長) —

●みんなの最新情報と今後3カ月の行事をご案内いたします。

3. 年末年始展示イベント さる

[詳しくはこちら](#)

今年で12回目を数える干支展。新年を迎える季節感をご来場の皆さまに感じていただき、歓迎する気持ちを込め展示を行います。日本だけでなく世界各地のさるに関連した標本資料やパネル、写真等を展示して、人びとの生活や文化と深く結びついたさるを紹介する、みんなくならではの展示です。関連イベントなども開催予定ですので是非ご来館ください。

日 時：2015年12月10日(木)~2016年1月26日(火)

場 所：国立民族学博物館 本館展示場(ナビひろば)(予定)

観覧料：一般420円/高校・大学生250円/小・中学生110円

— 上羽陽子 (文化資源研究センター 准教授) —

4. 公開講演会「育児の人類学、介護の民俗学—フィールドワークによる再発」

[詳しくはこちら](#)

ダウン症のある子どもを療育する人類学者と介護施設で働きながらお年寄りの話を聞き書きする民俗学者。そこには障がいのある子どもの家族や認知症、介護の現場などにつまとう否定的なイメージを払拭するばかりか、多様な人びとが暮らしやすい社会を実現する新たな可能性が見えてきます。本講演会では、育児と介護の現場におけるフィールドワークから、少子高齢化をむかえた日本社会のゆくえを探ります。



日 程：2015年11月13日(金) 18:30~20:40

場 所：日経ホール(東京都 日経ビル)

定 員：600名

参加費：無料(要事前申込/「参加証」が必要です)

手話通訳あり

主 催：国立民族学博物館、日本経済新聞社

— 南真木人 (研究戦略センター・准教授) —

5. 研究公演「時を超える南インドの踊り」

[詳しくはこちら](#)

本公演では、現在でも寺院舞踊のスタイルを伝える舞踊家ナルタキ・ナタラージの演技を通して、インド舞踊文化の多様性を紹介します。バラタナーティヤムは、南インドのヒンドゥー寺院でおこなわれた奉納舞踊を起源とし、1930年代に舞台芸術として生まれ変わった舞踊ジャンルです。



日 程：2015年11月22日(日) 13:30~16:00

場 所：国立民族学博物館 講堂(450名) 事前申込制

参加費：要展示観覧券(一般420円)

出 演：ナルタキ・ナタラージ ほか

主 催：国立民族学博物館 協 賛：エア・インディア

後 援：在大阪・神戸インド総領事館

— 寺田吉孝 (先端人類科学研究部・教授) —

6. 公開フォーラム「世界の博物館 2015」

[詳しくはこちら](#)

独立行政法人国際協力機構（JICA）から委託を受け、滋賀県立琵琶湖博物館と共同で、世界各地の博物館専門家を対象とした課題別研修「博物館学とコミュニティ開発」を実施しています。今年度は、セーシェル・ペルー・アルメニア・フィジー・ミャンマー・パレスチナ・ヨルダン・エジプトの8カ国・地域から、10名を予定。この機会に、これらの国々の博物館事情に触れ、あわせて博物館の可能性を考えることを目的に、公開フォーラムを開催いたします。

日 時：2015年11月3日（火・祝） 13:00～17:15（予定）

会 場：国立民族学博物館 第5セミナー室

定 員：先着70名（事前申し込みが必要です）

参加費：無料

主 催：国立民族学博物館／滋賀県立琵琶湖博物館／独立行政法人 国際協力機構

— 園田直子（文化資源研究センター・教授） —

7. カムイノミ／アイヌ工芸 in みんなく

[詳しくはこちら](#)

アイヌの人びとは、動物や植物、家や器物など、大切なものをカムイ（神）として敬います。

そこでみんなくでは、1年に1度、技術伝承者の研修期間に、みんなくに収蔵されるモノたちのカムイに向けた儀礼、カムイノミを実施しています。

「カムイノミ」

日 時：2015年11月12日（木） 10:30～11:50（予定）

場 所：国立民族学博物館 前庭

「アイヌ工芸 in みんなく」

日 時：2015年11月12日（木）～11月15日（日）

場 所：国立民族学博物館 エントランスホール

— 齋藤玲子（民族文化研究部 助教） —

8. 北大阪ミュージアムメッセ

北大阪の7市3町（吹田市、箕面市、池田市、豊中市、茨木市、高槻市、摂津市、能勢町、豊能町、島本町）の美術館・博物館、計50館が大集結します。

入場、参加は無料。美術館・博物館の文化祭「北大阪ミュージアムメッセ」にぜひお出かけください！

日 程：2015年11月14日（土）・15日（日） 10:00～17:00

場 所：国立民族学博物館 エントランスホール（本館1F）・特別展示館休憩所

— 水野敬仁（総務課 課長補佐） —

9. 最新の研究紹介

[詳しくはこちら](#)

感染症対策とグローバルヘルスの人類学

近年、欧米の医学界において、グローバルヘルスの名の下に発展途上国における感染症対策への注目が高まっている。今回のノーベル医学生理学賞もその一環と考えることができる。このグローバルヘルスについての人類学的研究の最新の動向を紹介する。

— 浜田 明範（機関研究員） —

10. 最新の研究紹介

[詳しくはこちら](#)

「古代文明アンデスと西アジア 神殿と権力の生成」

（関 雄二 編／朝日新聞出版）

— 関 雄二（民族社会研究部 教授） —

11. 新任紹介

[詳しくはこちら](#)



専門は環境民俗学。東京大学東洋文化研究所汎アジア研究部門特任講師を経て2015年10月より現職。博士（文学・総合研究大学院大学）。

日本列島や中国大陸などをフィールドに、鵜飼い漁のカワウやウミウ、中国大興安嶺のトナカイ、琵琶湖の外来魚といった動物と人とのかかわり、人間集団の適応形態、生業を裏打ちする文化について研究をしている。著書に『鵜飼いと現代中国—人と動物、国家のエスノグラフィー』（東京大学出版会、2014年）など。

— 卯田 宗平（先端人類学研究部・准教授） —

12. 研究こぼれ話

「焼けた壁と炭化物は何を語るのか？」

ウズベキスタンのサマルカンド近郊にあるカフィル・カラ遺跡から、火災によるものと考えられる赤く焼けた壁や、大量の炭が見つかりました。炭の中からは「封泥」が約180点出土し、焼土層の下からは大型の建物跡も検出されました。

これらの遺構や遺物は当時のどのような状況を示しているのでしょうか？

最新の発掘成果について紹介したいと思います。

— 寺村裕史（文化資源研究センター・助教） —



国立民族学博物館

懇談会についてのお問い合わせ

国立民族学博物館 総務課 広報係

電話 :06-6878-8560(直通) FAX:06-6875-0401 Mail:koho@idc.minpaku.ac.jp